

「Public Outreach ~研究の広報活動~ についてのコメント」

中家 剛（高エネルギー）

大学での広報活動

現在の情報化社会において、研究の広報活動（Public Outreach）の重要性はいまさら言うまでも無い。また国民の税金で運用されている国立大学において、我々の研究活動を広く一般市民に伝えることも当然のことである。今回の話は主に現在急速な進展を遂げているインターネットと Web を使った広報活動を取り巻く現状について、素粒子物理学（または基礎科学）の見識を一般の人に如何に紹介していくかについて意見を述べる。

Web は非常に強力な広報活動の道具であり、本物理学教室においてもその重要性ゆえ、ホームページの整備と Web を使った研究の広報活動の必要性を多数の方が唱えている。その重要性は当然のことであるが、あえて私は大学と地域社会の密接な関係はホームページだけではなく、やはり生身の人間が大学の外に赴き我々の活動を紹介することで深められることを主張したい。ホームページの情報は我々の研究活動を伝えるきっかけにはなるが、我々の研究活動を深く理解してもらうためには、

- (1) 講演者が外部に赴き、興味ある人たちに我々の研究活動を紹介する。
- (2) 興味ある人を大学に招き入れ、現実の研究活動を見学してもらう。
- (3) また、これらの活動はできれば身の回りの地域社会から広めていく。

ことが重要であると思う。もちろんホームページを使った不特定多数の人に我々の研究活動を広く伝えることは大事ではあるが、これらは予算と人的資源の限られた大学では限界がある。私の研究分野では広報専門の課をもつ研究所がその任に当たることが適切であると考え。大学はそのホームページをリンクするなり、一部借りるなりして利用すればよい。そして、研究所にできずに大学にできる研究の広報活動はやはり自分の近辺の人たち（地域住民、京大関係者、京大の卒業生、将来京大に入学したいと考える若い世代）に如何に我々の研究が大事であるかを親切に紹介していくことである。ホームページ上の広報活動で完璧を求めるのではなく、そこは程ほどでもよいので、京都にある大学でのみ可能な広報活動をまず第 1 にやっていくべきであると考え。

海外での例

私は京都大学に赴任する前に、アメリカのフェルミ国立加速器研究所とシカゴ大学の両方で働いていた。フェルミ研究所ではホームページ及び広報を担当する専門家がいて、その任に当たっている。それゆえ、ホームページの整備はもちろんのこと、色々な研究活動の広報が迅速にうまく行っている。逆にシカゴ大学では（素粒子物理学に関する）専門の広報課はなく、ホームページを見ても一般の人のために整備されているとは言えない。また専門化向けに対しても、情報の更新が迅速でなく外部の人に対してうまく機能していなかった。ここには大学と研究所の間での大きな隔りがある。現在の日本においても、同様のことが言えると思われる。ただし、シカゴ大学は天文台をもっており、そこでの活動で一般の人に基礎科学を公開し、教育している姿勢はシカゴ大学がシカゴの市民に対して、非常に積極的に広報活動を行っていることを示している。その活動が地域に密接に関係している点は私が上で述べた、これからの京大物理学教室の広報活動の 1 つの方向であると考え。